Partnerships with Universities

「日本通（つう）」になろう。
知っているようで知らない、奥深い世界。
科学技術史をのぞいてみませんか。

国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

Friday Night Science
大学生のための科学技術史講座
「日本の科学技術」

H26年度アンケート結果 一部抜粋

それぞれの先生の専門のお話をわかりやすくうかがえたのがよかったです。それ自体をサイエンスコミュニケーションのモデルとして参考にさせていただけたと思います。

過去から現代までの科学技術の変遷を様々な角度から考えることができた。

実物を見せていただいたり、体験をしたりできておもしろかった。スライドの内容をプリントしてもらい助かった。

文系でこのエリアの話が勉強できなかったので特にあかりの話など面白かった。

対　　象：大学生・院生・専門学校生（一般も可）
会　　場：国立科学博物館（上野地区）
開講期間：平成27年10月2日、10月16日、11月6日、11月20日、
12月4日、12月18日　各金曜日の18：00～19：30
募集人数：40 名程度
受 講 料：12,340 円（大学パートナーシップ入会校の学生 6,170 円）
※この講座は 6 回の連続講座です。1 コマ単位での受講はできません。

受講までの流れ

1 お申し込み

①住所 ②氏名（ふりがな） ③年齢 ④電話番号 ⑤メールアドレス ⑥学校名
⑦学部（専攻）※学校名等は現役の学生のみご記入下さい。
上記①～⑦をご記入の上、e-mail または FAX にてお送りください。
その際には、件名を『大学生のための科学技術史講座受講申込』とご記入下さい。
※収集した個人情報は、受講者への連絡等、本講座に付随する目的のみに使用します。

締め切り 平成 27 年 9 月 14 日（月）必着

2 受講者の決定

受講決定者には、9 月 18 日（金）までに、受講決定通知を発送いたします。
応募者多数の場合には、受講できないこともあります。
また、「大学パートナーシップ」入会校の学生を優先させていただきます。
あらかじめご了承下さい。

3 受講料のお支払い

受講料のお支払い方法等については、受講決定通知とともにご案内いたします。

国立科学博物館パートナーシップ入会校一覧（平成 27 年度）

青山学院大学
麻布大学
桜美林大学
学校法人 大妻学院
・大妻女子大学
・大妻女子大学短期大学部
お茶の水女子大学
学校法人 香川栄養学園
・女子栄養大学
・女子栄養大学短期大学部
・香川調理製菓専門学校
学習院大学
神奈川工科大学
慶應義塾大学
工学院大学
国際基督教大学
国士舘大学文学部
国士舘大学理工学部
埼玉大学
十文字学園女子大学
・十文字学園女子短期大学部
首都大学東京
学校法人 上智学院
・上智大学
・上智大学短期大学部
・上智社会福祉専門学校
昭和薬科大学
聖徳大学
・聖徳大学短期大学部
・聖徳大学幼児教育専門学校
大正大学
玉川大学
千葉大学園芸学部・園芸学研究科
千葉大学理学部・理学研究科
千葉工業大学
中央大学理工学部・理工学研究科
筑波大学
帝京大学
・帝京大学短期大学
帝京科学大学
帝京平成大学
電気通信大学
東海大学
東京大学
東京医療保健大学
東京外国語大学
東京海洋大学
東京学芸大学
東京家政大学
・東京家政大学短期大学部
東京環境工科専門学校
東京藝術大学
東京工業大学
東京工芸大学
東京慈恵会医科大学
東京女子大学
学校法人 東京女子医科大学
・東京女子医科大学
・東京女子医科大学看護専門学校
東京造形大学
東京電機大学
東京都市大学 知識工学部
東京農業大学
・東京農業大学短期大学部
東京農工大学
学校法人東京理科大学
・東京理科大学
・諏訪東京理科大学
・山口東京理科大学
東邦大学
東洋大学
獨協大学
二松学舎大学
日本大学 生産工学部・生産工学研究科
日本工業大学
日本獣医生命科学大学
日本女子大学
日本薬科大学
学校法人 花田学園
・東京有明医療大学
・日本鍼灸理療専門学校
・日本柔道整復専門学校
一橋大学
文教大学
武蔵野美術大学
明治大学
明星大学
立教大学
立正大学
学校法人 早稲田大学
・早稲田大学
・早稲田大学芸術学校
・早稲田大学川口芸術学校

※入会校は、平成 27 年 4 月 1 日 までの情報によるものです。

お問い合わせ・お申し込み先

〒110-8718　東京都台東区上野公園 7-20
国立科学博物館 事業推進部 学習企画・調整課
「国立科学博物館 大学パートナーシップ」担当
TEL:03-5814-9876　FAX:03-5814-9898
e-mail:upartner@kahaku.go.jp

国立科学博物館は、自然史及び科学技術史研究に関する中核的な博物館であり、
それらの研究成果を積極的に教育事業として発信しています。
科学技術史研究の成果の発信として開講する「大学生のための科学技術史講座」は、
我が国の産業、文化を支えてきた世界に冠たる日本の「ものづくり」に
スポットを当てた講座です。

Curriculum カリキュラム

※カリキュラムは変更することがあります。

第1回 10月2日(金)

産業技術史資料情報センター　センター長　鈴木 一義

「日本の科学技術、産業技術の概論」

日本のモノづくりの特色について、日本の誇るモノづくり技術を紹介し、また我が国のモノづくり産業の現状と課題について述べます。

第2回 10月16日(金)

理工学研究部科学技術史グループ　研究主幹　久保田 稔男

「日本の近代建築」

洋の東西を問わず、建築は人類の生存にとって欠くことのできない存在です。世界各地で地域の気候に根ざした独自の建築が造られてきましたが、文化の交流に伴って、時に影響しあい、時に反発して建築も多様に形を変えていきました。日本の建築も例外ではなく、特に明治以降、文明開化のかけ声とともに西洋の建築技術が流入し、伝統的な建築とは異なった、新しい建築が各地に建てられ、現在に至っています。上野公園にある建築を題材に、日本の近代建築の歩みを概観します。

第3回 11月6日(金)

理工学研究部科学技術史グループ　研究員　杳名 貴彦

「出土遺物から探る科学技術」

日本では、様々な開発や工事に伴い発掘調査が行われます。発掘調査で出土した遺物の中には、当時の科学技術を知る手がかりとなるものも多く含まれています。ここでは、金や銀の生産技術に関連する遺物に着目して、その調査から明らかとなってきた金銀生産の歴史を考えたいと思います。

第4回 11月20日(金)

理工学研究部科学技術史グループ　研究員　有賀 暢迪

「明治日本、西洋の科学技術と出会う」

明治時代の人々は、新しく入ってきた西洋の科学技術をどのようなものとして捉え、それをどのように受け入れていったのでしょうか。物理の場合を主な例として、近代的な理工学の教育・研究が日本で始められた経過を見ていきます。

第5回 12月4日(金)

産業技術史資料情報センター　副センター長　亀井 修

「ヒトの時代：現代社会と科学技術」

ヒトの活動の歩みを綴る産業技術史の視点から，現代社会と科学技術を概観します。「サイエンス･コミュニケーション」や「アントロポシン」などの流行りの言葉にも触れながら，近未来の姿を事実に即しながら「楽観的」に語ることに挑戦してみたいと思います。

第6回 12月18日(金)

理工学研究部科学技術史グループ　グループ長　前島 正裕

「日本の科学技術、産業技術の総括」

増大するエネルギー消費やCO_2の排出は、大きな社会問題となっています。また、電気の利用について、いろいろと考えることが増えました。電気エネルギーの利用は明かりから始まりました。少し歴史を振り返って、私達の周りにある電気製品のルーツやその普及過程を様々な視点から見直すことによって、エネルギーと技術の開発について考える機会にしたいと思います。